

“不老不死”のベニクラゲ

若返りポリプ

世界初の展示

京大水族館



クラゲの標本と生きたポリプを並べたベニクラゲの展示(白浜町臨海で)

白浜町臨海、京都大学白浜水族館は、「不老不死」の研究材料として注目されるベニクラゲの成熟クラゲの標本と、京都大学瀬戸臨海実験所の久保田信准教授

展示しているのは第3水

久保田准教授は「今後、

水槽のタツノオトシゴなどの水槽内。ポリプは水槽前面に接近させた直径6センチほどの円形プラスチックケース内の壁面のあちらこちらに付着している。装備された虫眼鏡でのぞくと、一個一個起立する個虫(こちゅう)を拡大して見ることが出来る。成熟クラゲは、小形の瓶に展示されている。

たくさん若くて元気なクラゲを泳がせたい。多細胞動物の中で最も神秘的な動物であるベニクラゲを身近に感じてほしい」と呼び掛けている。

ベニクラゲの若返り

成体のクラゲは通常、有性生殖の後は死を迎えて溶け去るが、ベニクラゲは溶けずに肉団子状になり、再び走根を延ばしポリプへと戻る。このポリプがクラゲ芽を形成し、やがて未成熟なクラゲとして海中へ遊離して泳ぎ出す。この一連のサイクルを無限に繰り返すことから「不老不死」と言われる。久保田准教授は、昨年5月から今年3月にかけて6回の若返りを成功させ、さらなる更新を目指している。